

拝啓

若葉の候、神奈川県ママさんバレーボール連盟会長様をはじめ連盟の皆様にはご清祥にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、4月16日には神奈川県きずなブック実行委員会に心温まる寄付金を頂戴しまして誠にありがとうございます。

神奈川県ママさんバレーボール連盟の皆様には、東日本大震災が発生した翌年の平成24年3月から毎年、神奈川県きずなブック実行委員会の活動にご理解とご協力を頂いていますこと感謝申し上げます。

1月1日に発生した能登半島地震から3か月半が過ぎ、被災地では倒壊家屋の公費解体や仮設住宅の建設等が進められていますが、石川県内でいまだに5,449人（内閣府情報4月16日現在）の方々が避難生活を余儀なくされています。

このような状況の中でも、東日本大震災被災地子ども支援実行委員会に引き続きご配慮を賜りましたこと実行委員一同感謝の念に堪えません。誠にありがとうございます。

お預かりしました寄付金は、東日本大震災の地震・津波等で甚大な被害を受けました被災地の小・中学校の学習図書をお届けするための費用に使わせていただきます。

なお、昨年お預かりしました寄付金は、岩手県久慈市と洋野町の小・中学校13校に334冊の図書をお届けする費用に使わせていただきました。

本をお届けしました久慈市の小学校の校長先生と子どもたちや洋野町教育委員会様から次のようなメッセージが届いていますのでその一部を紹介させていただきます。

校長先生からは、

「（略）この度は、たくさんの本を寄贈していただきまして誠にありがとうございました。子どもたちは新しい本を次々に手に取り、夢中になって読んでおります。なお、本校を代表して図書委員会の子どもたちがお礼の手紙を書きましたのでお読みいただければ幸いです。」

子どもたちからは、

「僕たちのために本を寄贈してくださってありがとうございます。ぼくは、物語が好きなのでいっぱい本を読みたいと思いました。」

「・・・みんなに紹介してたくさん読んでもらえるように活動してい

きたいです。」「…本が少ないので、新しい本が増えて嬉しいです。大切に使います。」

また、洋野町教育委員会の指導主事の方からは、

「(略)震災から13年が経過し、すでに小学生は地震の後に生まれました子供たちとなっていますが、岩手では、「いわての復興教育」を心に掲げて震災の教訓を繋いでいこうと各学校での教育活動が続いています。3月11日は岩手だけではないでしょうけれども、あの日を思い、祈りに満ちた日となりました。」

神奈川きずなブック様からの寄贈につきましても、遠く神奈川から東北の地を思い続けていただいていますことを通じて、震災を知らない子供たちにとってはとても良い学習の機会につながるのではないかと思います。またやがて大人になっていくにつれて今度は自分たちが他者を思いやろうとする心の醸成に繋がるものと思います。

長い時間をかけて継続してこられたこと、洋野町まで思いを届けていただいたことを厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。(略)」

このように、私たちの本を通した励ましのエールが子どもたちの心に繋がってくれたらこの上もない喜びです。

これから、微力ではありますが本を通して被災地の子どもたちの明るい未来づくりにお手伝いができればと考えています。

最後に、神奈川県ママさんバレーボール連盟会長 河内裕子様をはじめ各地区連盟の皆様のご活躍をお祈り申し上げお礼の挨拶とさせていただきます。

敬具

令和六年四月二十三日

神奈川県市町村教育委員東日本大震災被災地

子ども支援実行委員会 実行委員長 武井 健一

神奈川県ママさんバレーボール連盟

会長 河内 裕子 様